

刷新されたThink

🕒 Read 8分



すべての成功したイノベーションの裏にはそれが改良版であろうとまったく新しい発明であろうと、そこには常にまた別のイノベーションが隠されています。いずれにせよ、イノベーションはユーザーの問題を解決し、新しい選択肢を提供することにつきます。このことはデザイナーの第二の天性からわき起こるものです。

「デザイナーはデザインのことを考えています。」と語るのは Steelcase のグローバルデザイン部長である Bruce Smith 氏。「私たちは体験がいかによくなるかを考えている うしろめたさが常にあります。何故なら、素晴らしいものでどこかに改善の余地があると見ているからです。ですから見るものすべてをこれでいいのかと評価し、常に改善する機会をねらっているといってもいいかもしれません。そのことがデザインが生活にもたらす価値であると信じているわけです。」



デザイン思考のこの根深い習慣からいつもチームはまずこう質問することから始まります。「Think はさらにいいものになるだろうか?」、この質問は2004年にデザイナーの Oliver Loew との共同デザインで発売された直後のことです。

「さらに洗練され、エレガントに生まれ変わりました。イノベーションとインテリジェンスを備え、さらに質の高いものへと仕上げました。」

発売後まもなく、Think チェアはその刺激的で画期的なイノベーションが高く賞賛され、Steelcase の製品の中でも世界的に成功をし、最初の Cradle to Cradle (ゆりかごからゆりかごへ) の製品として認定され、業界を超えてその高いサステナビリティ標準を築くことになりました。こういう状況でも常にデザイナーはその先を考え、Steelcase Design チームはエンジニアリングとマーケティングチームと協働しながら、その改善点を継続して探していたのです。このプロセスはSteelcase の製品開発プロセスではよくあることです。

「時間が経過し、何が適していて、意味があり、適切な改善なのかという私たちの感覚も2004年以降大きく変化をしたのです。ワーカーのモバイル化は加速し、Think は今ではあらゆる状況で使用されるようになりました。そしてオフィス家具へのユーザーの期待も大きくなるばかりでした。またその間に新しい素材や金型のテクノロジーの進化や機能の向上も学んでいったのです。私たちはあれから8年もの歳月をかけて、企業としてさらに革新性を高め、これらのすべてが途方もない機会をつくったのです。」



デザイン思考はまずはユーザーを理解することにつきますのです。それは世界全体の数十万というThinkのユーザーからのフィードバックが貴重な意見をもたらしたのです。何がいいところで、何が改善点かというような多くの意見がデザインチームに寄せられ、チームは改善の余地があることを確信していったのです。

その後、約2年前にチームはThinkのデザイナーである Oliver Loew 氏とアイデアを生み出し、可能性を分析し、ラピッドプロトタイプをつくりあげ、新しいThinkのコンセプトを具現化し、テストしてみました。

Steelcaseは最近になってこの大規模なデザイン改良の努力の結果を公表しました。新たに刷新されたThinkチェアはその独特な外見は残しつつ、より高性能、より洗練された、よりスマートな製品としてパッケージされて生まれ変わりました。改良されなかった部分はなんとキャスターだけです。



おそらく最も目に見えて顕著な変化はその背もたれです。20ものフレクサーの変わりに、新しいThinkは独特な形状をした15のフレクサーが互いに繋がりがあい、新たなLiveback®を搭載し、今までにない究極の快適さを提供しています。背もたれ全体はフレーム、繋がったフレクサー、そしてデュアルエネルギーランバーという3つのパートに分かれ、互いに連動しながら動く賢い人間工学サポートシステムを実現したのです。

「私たちは必要な場所にサポートを、必要な時に自由度を与える関係をつくりあげました。それは個性を持つ性能を搭載した独自のソリューションです。」とSmith氏は語っています。

もう一つ注目すべき点は性能が向上したことで、体重感知機構の機能が増し、リクライニングの際により快適なサポート、そして座クッションの改善により心地よさが増したことです。



それほど重要でないものも含めれば多くの改善点がありました。例えば、ステンレススチールは洗練さにアクセントを加え、調節は今までよりさらに統合され、使用も簡単になりました。背もたれと座面のエッジも手触りがよく、背もたれの高さは少し高くなり、先に行くほど細くなり、アームのデザインはより頑丈になっています。

新しいThinkは今までより分解の速度が速く、簡単に再生できるようにより少ない部品を使用しています。サステナビリティでさらに重要な点はその改善された耐久性、多様性、そして個人のデスクから会議室やトレーニングルームなどのグループワークセッティングまでさまざまなセッティングの中で長く使用できるタイムレスな魅力ポイントがあるところです。

「2004年のThinkがまだ10代の若者の頃に偉大な機能でその地位を約束され、今、その若者が洗練されたエレガントな大人に成長し、イノベーションとインテリジェンスを備えたさらに質の高いものへ生まれ変わったのです。」とSmith氏は言います。

この再導入はあくまでも通過点に過ぎません。チームのThinkのデザインの見直しは今しばらくは停止するでしょう。

Featured Products
